

金融取引調停申立書（顧客側）

札幌弁護士会紛争解決センター 御中

年 (札幌)第 号 (金融第 号)

申立年月日 令和 2年 6 月 25 日	
申立人	住所 〒〇〇〇〇-〇〇〇〇 TEL (〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇〇 札幌市北区北〇条西〇丁目〇番〇号 氏名 札 弁 一 郎 ㊞ 職業 無職 年 齢 70歳 申立人と紛争当事者との関係(□にレ点でご記入下さい) <input checked="" type="checkbox"/> 当事者本人 <input type="checkbox"/> 当事者の親族・法定相続人 *申立人が複数いる場合には、別紙をご利用下さい。
代理人	住所 〒 TEL () - 氏名
相手方	(金融機関名) 住所 〒〇〇〇〇-〇〇〇〇 TEL (〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇〇 札幌市中央区南〇条西〇丁目〇番地 氏名 (法人名・代表者名) 〇〇証券株式会社 〇〇支店 支店長 甲 野 太 郎
	(担当者名) 乙 川 花 子
	(相手方との事前交渉がある場合には、交渉担当者の氏名) 丙 山 次 郎
添付書類	<input type="checkbox"/> 委任状 <input checked="" type="checkbox"/> 証拠書類 <input type="checkbox"/> 通 <input checked="" type="checkbox"/> 資格証明書(申立人が法人の場合) <input type="checkbox"/> 当事者・全法定相続人の戸籍・除籍謄本等(当事者死亡の場合)
希望する調停手続実施場所 (ただし、ご希望に沿えない場合もございます。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 札幌 <input type="checkbox"/> 旭川 <input type="checkbox"/> 函館 <input type="checkbox"/> 釧路 <input type="checkbox"/> 帯広 <input type="checkbox"/> 北見 <input type="checkbox"/> 網走	

1. 申立ての趣旨（相手方に求める結論）

相手方に [（金 100万 ）円 相当額] の支払を求める。

その他

2. 紛争発生年月日

令和2年頃

3. 紛争の内容(担当者名・説明した者の氏名等を明記して下さい)

平成31年1月に、〇〇証券株式会社の担当者乙川花子が私の自宅を訪問し、投資信託の購入を勧めてきました。私はちょうど満期になる定期預金があったので、そのことを言ったところ、乙川花子は定期預金と同じようなものだ、定期預金よりお金が増えるというような話をして、強く契約を迫ってきました。私は定期預金と同じようなものであればいいかと思ったのと、乙川花子が必死で、契約すると言わないと帰らない様子だったので、契約することにしました。ところが、購入後、購入した投資信託は値下がりし、解約したときには100万円の損が出ました。

4. 被害額等

100万円

5. 相手方との事前交渉の有無・内容

令和2年1月10日に〇〇証券株式会社に文句を言いに行きましたが、乙川花子は転勤してしまっておりませんでした。代わりに対応した丙山次郎には私がきちんと説明を受けたとの書類があると言われ、相手にしてもらえませんでした。しかたないので、これ以上の損が出ないように、その場で解約してきました。

その後も納得がいかないもので、周りの人と相談したり、息子と一緒に〇〇証券株式会社に話をしに行ったりしましたが、解決ができないままです。

6. 紛争の概要

(申立人が主張する紛争の概要を時間の流れに沿って、簡潔・明瞭に記載して下さい。なお、この申立書は相手方にも写しを送付することにご留意下さい。)

年月日	事 実
H31.1.12	乙川花子が自宅に来て、投資信託を勧めてきた。
H31.1.18	投資信託購入契約をし、500万円を支払った。
R2.1.5	契約内容の案内文書が届き、値下がりにしていることを知る。
R2.1.10	〇〇証券株式会社に文句を言いに行く。その場で解約をした。
R2.3.15	息子と一緒に〇〇証券株式会社に話をしに行く。相手にされなかった。

※ 上記枠内に記載しきれない場合には、適宜、別紙をご利用下さい。